

2022年1月31日

2021年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

自母乳の補足としての  
ドナーミルクに対する母親の認識  
：文献レビュー

Mothers' Perceptions of Donor Milk  
as a Supplement to Their Own Milk  
： A Literature Review

20MW017  
吉島侑花

## 要旨

**I 研究目的：**近年海外ではハイリスク新生児に対して、母親の母乳（自母乳）では哺乳量が不足する場合、人工乳よりも母乳バンクからのドナーミルクの使用を優先することが推奨されている。しかし、日本ではまだドナーミルクは十分に認知されておらず、他の母親の母乳の使用には心理的に抵抗もある事が推測される。そこで、ドナーミルクをめぐる、レシピエントである母親の思いを文献検討により明らかにし、自母乳に代わる選択肢としてのドナーミルクの情報提供のあり方を検討する。

**II 方法：**PICoに基づき、医学中央雑誌 Web、CHINAL Plus with full text、EMBASE、PubMed (MEDLINE)、The Cochrane Library を用いて検索を行った。データベース検索に加えてハンドサーチも実施した。英語または日本語による質的研究を対象とし、採択した文献はCASP (Critical Appraisal Skills Program) のチェックリストに沿って論文の質を二人で個別に評価した。Joanna Briggs Institute (JBI)によるシステマティックレビューのアプローチを参考に、データ分析を行った。

**III 結果：**採択した文献は6件であり、論文の質は概ね高くはなく、研究参加者の募集や対象者と研究者の関係の考慮に記述が欠けるものが多かった。しかし、結果の根拠となる語りの記述は示されており、6件すべてを統合の対象とした。研究の実施国はアメリカが2件、北アフリカ、オーストラリア、ポーランド、インドが各1件であり、日本の文献は含まれていなかった。6文献から母親の語りは9のカテゴリーに分類され、さらにカテゴリーは以下の4つに統合された。「統合1：ドナーミルクの選択には、積極的理由による選択と消極的理由による選択がある」、「統合2：ドナーミルクの使用を検討する上では安全性が保障されていることが第1に重要である」、「統合3：誰が母乳を提供しているかが重要である」、「統合4：ドナーミルクを選択しても葛藤はあり続ける」ドナーミルクの使用においてその安全性は大前提であるが、感染症の検査に基づく安全性、ドナーミルクのドナーである母親の選出基準や製造の工程などすべてのプロセスにおける安全性、ドナーミルクで育った児のアウトカムなど、母親が知りたい安全性は多様であった。

**IV 結論：**ドナーミルクの使用の検討に際して、児の栄養方法に対する価値観、懸念点は母親により異なる。話し合いの中でその価値観を知り、母親がその選択に十分な判断根拠をもてるように情報を提供しうる支援が重要である。